

## 第2回 百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議

■日時： 平成24年4月12日（木） 14:10～14:50

■場所： 大阪府庁咲洲庁舎50階 迎賓会議室

### ■出席委員

大阪府副知事	木村 慎作
堺市長	竹山 修身
羽曳野市長	北川 嗣雄
藤井寺市長	國下 和男
大阪府府民文化部長	福田 昌弘
大阪府教育長	中西 正人
堺市文化観光局長	志摩 哲也
羽曳野市市長公室長	妻谷 彰彦
藤井寺市総務部長	北本 義和

### ■ 内容

大阪府と堺市・羽曳野市・藤井寺市は、百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産の早期登録実現に向けて、知事と3市長からなる百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議を昨年5月に立ち上げ、このたび第2回推進本部会議を開催しました。

会議では、平成24年度の事業計画案などの議題が諮られ、ユネスコに提出を図る推薦書（案）の作成委託事業、東アジアの類似資産現地調査事業、世界遺産登録後のまちづくりを見据えた「地域活性化プラン（仮称）」の策定、国内外へのPR用DVDの製作、民間からの公募による世界遺産周知キャンペーンの実施などの新たな事業や、民間協議会の設置などが承認されました。

木村副知事からは、『最短で27年度の世界文化遺産登録を目指すため、民間とも連携し、機運醸成の取組を本格的に展開していくとともに、推薦書（案）の作成に取り組み、登録に向けた「第2ステージ」へと進めてまいりたい』との知事のあいさつが紹介された。

また各市長からも、世界遺産登録に向けた23年度の取組みや今後の事業推進について説明があり、機運醸成のための様々な事業が報告された。

今後、大阪初の世界文化遺産登録を実現するため、より一層4者が一体となって取り組んでいく。

### ■ 会議要旨

#### 1. 開会

会長（松井大阪府知事）挨拶 ～木村副知事代読～

百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議の第2回会議の開会にあたり、一言ご挨拶申し上げる。

昨年5月、大阪府と堺市、羽曳野市、藤井寺市の4者が一丸となって取り組む体制として、当推進本部会議を設立し、最短で、平成27年度の世界文化遺産登録を目指すこととした。

現在、世界遺産の数は、世界で936件と1,000件近くまで上って

おり、登録への道のりは、年々厳しくなっている。

しかし、そういった中、昨年、平泉と小笠原諸島が世界遺産に登録されたことは、日本にとって非常に明るいニュースとして記憶に新しいことかと思う。特に、平泉では、多くの方が訪れるなど、震災からの復興の一助となることも期待されているところ。

大阪においても、百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録を早期に実現し、地元で守られてきたすばらしい遺産が大阪だけでなく、日本で、そして世界で、人類の宝として継承されるとともに、国内外から多くの方が訪れる魅力と活気あふれる大阪を実現していきたいと思う。

そのためには、地元住民や府民の強い思いが必要不可欠。

昨年来、「世界遺産を大阪に」というメッセージをこめて、シンボルマークやロゴを作成するなど、国内外への情報発信に努め、登録への機運を盛り上げてきた。

そして、今年度からは、民間とも連携し、機運醸成の取組みを本格的に展開していくとともに、ユネスコに提出する推薦書の作成に取り組み、登録に向けた「第2ステージ」へと進めてまいりたいと思う。

大阪府としては、我々4者がさらに連携を深め、大阪初の世界文化遺産の実現に向けて頑張っていきたい。どうぞよろしく願います。

## ※出席委員紹介

## 2. 議事

推進本部の本部長の竹山堺市長が議長として議事を進行

(議長)

- ・百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録に向けた今までの経過と登録の流れについて、簡潔に説明をお願いします。

〔議題1〕平成23年度事業報告(案)と決算見込み(案)について事務局より説明(資料:議題1-①、議題1-②)

(事務局)

- ・資料「議題1-①」をご覧ください。
- ・まず「I 本部会議運営及び総合調整」について。推進本部会議では、昨年度5月12日に、第1回推進本部会議および幹事会を開催し、推進体制や平成23年度事業計画と予算について審議し、4者が一体となって取り組んでいく方針を決定した。
- ・また、幹事会の下に二つの部会を設置し、事業を実施するにあたっての課題等について検討・協議をしてきた。
- ・学術検討・条件整備部会は、昨年度は3回開催し、構成資産や緩衝地帯のあり方、航空レーザ測量や類似資産の調査、推進本部会議のイコモスへの団体

加入などについて審議した。

- ・魅力創出・情報発信部会については、昨年度は4回開催。今後世界文化遺産登録を目指すにあたって、統一的なメッセージを国内外に発信するためのシンボルマーク・ロゴの作成や、各種PRプラン、民間協議会のあり方等について審議した。
- ・有識者会議については、昨年度は第7回有識者会議と第10回、11回の専門部会を開催し、文化庁から課題として与えられている構成資産の選択や、類似資産の比較研究、国際シンポジウムと国際専門家会議の招聘者等について、意見を頂いた。
- ・魅力創出・情報発信事業の実施について。「情報発信事業の実施」として、百舌鳥・古市古墳群のPR用シンボルマークを策定し、その普及を図った。46社からの提案があり、選定委員会において優秀作品を選定し決定された。HP等で公表し、関係団体や民間団体への使用普及を図っている。
- ・さらに、国内外へ発信するPRツールとして、多言語リーフレットを策定し、パリのユネスコ本部や各主要施設、大規模集客イベント等で配布・使用。
- ・各種イベントにおけるPR活動も展開した。40万人の人出で賑わう御堂筋kappoでは、ステージでのPRに加え、特に子どもや家族連れを対象に、クイズやゲームなどを通して、百舌鳥・古市古墳群とその世界文化遺産登録に向けた取組みについて理解していただけるよう、普及に努めたところ。また、3万人のランナーが参加する大阪マラソンの機会をとらまえ、PRを実施。
- ・国際シンポジウムの開催については、国際専門家会議と一体的に、1月に開催した。イギリス、中国、韓国から、それぞれ専門家を招聘し、国内の専門家も含めて発表やディスカッションを行い、百舌鳥・古市古墳群の価値について議論をしていただいた。堺市産業振興センターで開催した国際シンポジウムには、約670名の方の参加があり、資産の価値や世界遺産登録に関する理解を深めていただいた。
- ・学術検討・条件整備事業について。6月にパリで開催された第35回ユネスコ世界遺産委員会に推進本部会議から3名が参加し、情報収集及び百舌鳥・古市古墳群のPRを行うとともに、世界遺産に登録されている資産について、その取組み内容や景観規制の考え方など、現地でのヒアリング調査を行った。
- ・百舌鳥・古市古墳群の「顕著な普遍的価値」を証明するため、海外の類似資産との比較研究を行うとともに、ユネスコに提出する推薦書(案)にも添付が必要となってくる図面資料を作成するため、百舌鳥・古市古墳群の航空レーザー測量も実施した。
- ・資料「議題1-②」の平成23年度の決算見込み(案)について。
- ・収入の部として、予算額3,315万5千円を分担金として計上。決算額は、分担金と雑入を併せ、3,315万8,303円。
- ・支出の部では、推進本部会議運営にかかる総合調整が、予算額348万3千円

に対し、決算見込み額が126万5千余円。学術検討・条件整備事業費が、予算額1,880万4千円に対し、決算見込み額が1,673万余円。魅力創出情報発信事業が、予算額1,086万8千円に対し、決算見込み額1,031万1千余円としております。

- ・その結果、予算額の合計3,315万5千円に対し、決算額の合計が2,830万7,875円で、この差額により、各団体への返戻金が生じている。
- ・なお、現在は決算見込み（案）なので、出納整理期間が終われば、監査を行い、最終、推進本部会議で評決いただきたい。

※ 特に意見・異議なしで了承される。

（議長）

- ・それでは、最終的な決算については、事務局から説明があったように、後日、各委員への報告と評決をいただくこととする。

〔議題2〕平成24年度事業計画（案）及び予算（案）について、事務局から説明（資料：議題2-①、議題2-②、議題2-③）

（事務局）

- ・24年度も23年度と同様、会議運営などの総合調整事業、魅力創出・情報発信に係る事業、学術検討・条件整備に係る事業の3つの柱で事業を推進していく。
- ・24年度の新たな事業としては、世界遺産登録後のまちづくりを見据えた「地域活性化プラン（仮称）」の策定、国内外へのPR用のDVD作成や推進本部会議ホームページの構築・運営を行うとともに、世界遺産周知キャンペーンを企画公募により実施。
- ・24年度は、ユネスコに提出するための推薦書（案）の作成に取りかかることとしており、東アジアの類似資産の現地調査なども実施。
- ・平成24年度の収入・支出予算額は6,269万6千円
- ・支出の内訳は、会議の運営などにかかる経費が445万4千円、情報発信に関する事業費1,773万2千円、学術検討に関する調査事業費4,051万円。
- ・主だった事業の年間スケジュールについて。
- ・民間協議会を5月中に立ち上げ、年に3回程度の開催を計画している。
- ・魅力創出・情報発信については、秋までに各種情報発信ツールの作成を行いたいと考えている。世界遺産周知キャンペーンも本部会議で了承を頂いたら、民間からの事業提案公募を行い、夏ごろから事業を実施していく予定。
- ・学術検討・条件整備部会については、推薦書（案）の作成委託を4月後半からプロポーザルで公募して、5月末には委託業者を決定する計画。また、東

アジアの類似資産調査は、中国・韓国の関係機関との調整を行い8月には現地に調査に赴く予定。国際専門家会議・シンポジウムは、12月の開催を予定しており、その審議内容を推薦書（案）に反映することとしている。今年はこの2月にユネスコへ推薦書を提出した「鎌倉」「富士山」のイコモスによる現地調査が行われるため、この調査に随行し、調査のポイント等を調べ、推薦書（案）作成に活かして行くこととしている。

※ 特に意見・異議なしで了承される。

（議長）

・ それでは、本事業計画と予算に基づき、事業を推進していくこととする。

〔議題3〕平成24年度以降の百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進体制について、事務局より説明（資料：議題3-①、議題3-②、議題3-③、議題3-④）

（事務局）

- ・ 推進体制については、基本的には、23年度と大きくは変わらないが、24年度は新たに、学術検討・条件整備部会と魅力創出・情報発信部会の下に、4つのワーキングを設けて、個別事案の検討・調整を行っていく。
- ・ 資産活用ワーキンググループでは、「地域活性化プラン（仮称）」の策定に向けて、世界遺産担当だけでなく、都市計画や観光など多くの関係機関が連携して検討を行っていく。
- ・ 府と市の役割に関する基本的な考え方は従前どおり。
- ・ 24年度の進め方について、「民間協議会の設置・運営」と「有識者会議の運営」は、後ほど別の資料で説明する。
- ・ 事務局機能の強化について。効果的、効率的な事務局運営と事業促進を図るために、咲洲庁舎に「百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進事務局兼事業推進チーム」を設置した。そこでは、事務局兼事業推進総括を置くこととし、学術検討・条件整備グループと魅力創出・情報発信グループを設置。構成は、府職員6名、堺市職員4名に加え、羽曳野市・藤井寺市からも常時ではないが、週1回程度連絡調整や打ち合わせなどを行うこととしている。
- ・ 資料3-②の規約の改正について。  
改正点は、第8条の幹事会について、その運営内容を詳細に規定したことと組織改変に伴う委員役職を改正したことで、ご承認していただければ、本日より施行させていただきたいと考えている。
- ・ 議題3-③の民間協議会の考え方について。  
推進本部会議規約第10条の規定に基づく民間協議会を本年度初旬に設置

したい。大阪・関西を代表する経済団体や観光団体、そして有識者の方々に参画いただき、推進本部会議と連携して、百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録の実現にむけた機運醸成を様々な分野で広域的に展開していくことを狙いとしている。今後、我々の取組みを応援していただける独立した民間組織への発展・拡大も視野に入れながら、検討を進めていっていただけるようにしたいと考えている。さらに、併せて、地元におけるネットワークの広がりや組織化などが進んでいけば、行政と民間が一体となった世界遺産登録実現に向けた取組みが展開されていくこととなる。

- ・議題3-④百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録有識者会議委員の選任について。

このたび、和田晴吾氏と福永伸哉氏の二人を百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録有識者会議委員に選任いたしたいと考えている。

- ・和田晴吾氏は、年齢64歳で、現在、立命館大学文学部教授を、福永伸哉氏は、年齢52歳で、現在、大阪大学大学院文学研究科教授を勤めている。両氏とも、推進本部会議がこの1月開催した国際専門家会議及びシンポジウムに参加され、百舌鳥・古市古墳群の評価についてそれぞれの専門分野から積極的にご発言をいただいた。日本の古墳時代研究の第一人者であり、百舌鳥・古市古墳群の価値を語る上で両氏の研究実績は欠かせないものとなっている。今後、登録に向けての推薦書(案)作成において有益な指導助言を得られることから有識者会議委員として選任を諮るもの。

※ 特に意見・異議なしで了承される。

(議長)

- ・それでは、24年度は、さらに推進体制を強化し、4者が連携して進めてまいること、規約について一部改正のうえ施行すること、民間協議会を年度当初に立ち上げ運営していくこと、有識者会議委員に新たに2名の先生を加えて運営していくこととする。
- ・民間協議会の構成や運営内容については、規約第10条第2項に基づき、本部長が別に定めることとなっているので、今後、具体的な内容を定めて参る。

#### 〔各市の取組み・今後の事業推進について〕

(議長)

- ・本日の議題は以上だが、最後に、百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録に向けて各市長から、各市における23年度の取組みや、今後の事業推進の考え方などについて、ご発言をお願いしたい。

### 【北川羽曳野市長】

- ・ 峯ヶ塚古墳を擁する峯塚公園が昨年度完成した。峯塚公園は小口山古墳や峯ヶ塚古墳を擁する公園で、当市最大の1万坪を超える。公園に管理棟を設けた。学習機能をもたせた管理棟で、訪れた方々が管理棟から峯ヶ塚古墳あるいは小口山古墳をみてもらう取組みをした。
- ・ 本年度取組もうとしていることに、応神陵古墳に隣接した誉田中学校の茶山グラウンドが周堤帯に立地していて、ここにガイダンス機能を備えた施設の整備を考えている。生徒たちが学ぶグラウンドと同時にガイダンス機能を備えた施設の建設を考えている。
- ・ 東高野街道に隣接する誉田中学校の建替えを平成25年度から始めるが、外観を和風にしたいと考えている。財政的に大きな持ち出しをしないといけないが、百舌鳥・古市古墳群の世界遺産を目指す市としてもしっかりとそのあたりの考え方を前に押し出してやりたいと思っている。
- ・ 古市の駅前を整備した。観光案内所もつくり、当市の玄関口としての古市駅の整備をすることとした。白鳥神社に隣接していて、竹之内街道、東高野街道を通して誉田中学校、茶山グラウンド、応神陵につながるようになっているので、一連の整備をして、当市を訪れる人に楽しんでもらえる取組みをしている。
- ・ 景観計画を平成23年度から取組んでいる。今年度は市民の意向調査も含めて完成にもっていきたい。
- ・ 古市古墳群のウォークアンドクリーンとして、古墳を訪ねて来る人にウォークと同時にクリーンにも協力してもらう取組みをしている。

### 【國下藤井寺市長】

- ・ 世界遺産登録に必要な藤井寺市景観条例の取組みを進めている。平成21年度から平成22年度においては景観計画導入調査業務および景観計画の検討を行った。平成23年度には景観計画庁内検討委員会より景観条例骨子案および景観計画素案を作成し、市議会に説明した。平成24年度には景観計画の策定評議会を設置・開催し、平成25年4月に景観の行政団体への移行を予定している。
- ・ 機運醸成を図るために世界遺産学習ノートを昨年度より作成し、小学6年生に無償配布している。これを使用して各クラス4時間程度の授業をして、そのうち1時間を文化財保護課担当職員により出張授業を行い、我がまち藤井寺に誇りを持ち、守ろうとする気持ちを育てる教育を実施している。
- ・ 古墳群の歴史的重要性に関する情報発信をさらに強め、市民の皆さんに自分たちの文化財のもつ価値の理解をさらに深めていただき、同時に世界

に誇る古墳のまちの未来像について、市民の皆さんと議論を進めていきたい。

#### 【竹山塚市長】

- ・歴史文化を生かした都市魅力創りということで取り組んでいる。百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録はその柱となっている。仁徳陵をはじめとした百舌鳥・古市古墳群の雄大さや普遍的価値を多くの人に知ってもらいたいということで、仁徳天皇陵古墳に隣接する女子大の跡地を大阪府から譲渡してもらった。そこにガイダンス施設を作ることにしている。
- ・世界文化遺産の登録の機運を高めるということでバッチを作成した。500円で販売しようと思っている。実費は300円。特に東京で販売を強化したいと思っている。仁徳陵・応神陵といっても、大阪府にあることが理解されていないことがあり、関東を中心にPRしたい。
- ・広報誌や庁用封筒に推進本部会議で作成したロゴマークを使いたいと思っている。
- ・引き続き塚のまつり・イベントでPRしたていきたい。シンポジウムの開催などを積極的に取り組んでいきたい。更なる機運の醸成を図りたい。

#### (議長)

- ・これからも、4者が一体となって、大阪初の世界文化遺産登録の実現に向けて、力を合わせていきましょう。それでは進行を事務局に返す。

#### (事務局長)

- ・本日は、何かとお忙しい中、委員の皆様方にはご出席賜り感謝。本部会議で決定・指示された事項について、今後、4者が一体となって執行して参りたい。
- ・これをもって「第2回百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議」を終了させていただく。ありがとうございました。

以上